

あさおの町会・自治会 vol.37

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



白山けやき自治会 自治会長 吉元 進

私たちの白山けやき自治会は、1981(昭和56)年から1989(平成元)年の9年間をかけて造成された大型マンション群(総戸数2,360戸)である「新ゆりグリーンタウン」の中で4番目に建設された「けやき街区」に平成元年に発足し、平成30年に30周年を迎えた比較的歴史の浅い自治会です。

発足当時は、住民の平均年齢も40代と若く子どもたちも団塊世代の2世代であられ、毎日元気な声が飛び交う活気あふれる街区でした。その後子どもたちも巣立ち、親世代の高齢化と相まって、住民の高齢化が進んできました。近年は若い人たちの入居が進み子どもたちも増加し、若返りが若干ながら進んでいます。

私たち白山けやき自治会は自治会の

理念である「心の故郷」と呼べる街づくりを目指して、「会員相互の親睦」「住みやすい生活環境の確保」「安全で安心な街づくり」「地域との融和」活動に取り組んでいます。

具体的には、「会員相互の親睦」事業として「敬老の日プレゼント」(9月)、「けやき祭」(10月)、「作品展」(11月)、「クリスマスツリー点灯式」(12月)と、子どもから老人まで楽しんで



作品展

いただけるイベントを季節に合わせて展開しています。次に「住みやすい生活環境の確保」及び「安全で安心な街づくり」事業として「あいさつは安全と安心の窓口」を合言葉に役員が率先してあいさつ運動を展開、広報誌「ハートフルけやき」を年3~4回発行してタイムリーな情報提供を行なっています。また、管理組合と共同して「防災訓練」(3月)の実施と防災備品の備



クリスマスツリー点灯式

蓄を進めています。最後に「地域との融和活動」では「新ゆりグリーンタウン連絡協議会(グリーンタウン内の自治会連携組織)」主催行事である「納涼祭」「駅伝大会」「ソフトボール大会」の運営協力を行っています。また、下部組織「白山まちづくり協議会」に参加し、行政及び事業法人との地域の連携強化に協力しています。

私たちの自治会は、創立当初から60%強の加入率で推移していますが、一人でも多くの居住者の皆さんに自治会に加入いただき、素晴らしい自然環境を享受し、人と人の絆を大切に「心地よい街」「安全で安心な街」で、「心豊かに穏やかな生活」を満喫できる環境づくりに専心していきたくと考えています。



多摩美みどり町会 会長 小泉 悦子

多摩美みどり町会は、よみうりランド遊園地のすぐそばにある32世帯の小さな町会です。山の上に位置し、緑豊かで、散歩中、原住民の狸に出会うことも珍しくない地域です。

多摩美全体としては夏に盆踊り大会があり、参加しています。地域活動としては年に1回の地域清掃時、懇親会を開催し、顔の見える関係づくりに努めています。地域の中では月に1回管轄の地域包括支援センターと一緒に健康体操を開催し、さまざまな情報を共有する場としています。地域での集会場がないため、有志の自宅を数軒募り開催しています。今年度は「聴力の話」「知っておくと助かる福祉用具」「認知症サポーター養成講座」「有料老人ホー



自然豊か

ムの選び方」を開催しました。

また、町会内に限り、「お助け隊」なる男性グループがあります。電球が切れた、電池交換したい、網戸が破れた、などさまざまな困った!に救助に来てくれます。町会の掲示板もお助け隊の手づくりです。

さまざまな特技をお持ちの方もい

て、手芸グループ「たんぼぼ」は障害者施設と連携し、施設の利用者がつくった刺繍などを手提げやエプロンに商品化し売り上げに貢献したり、ヨガ教室を自宅開放して開催するなど、小さなコミュニティの中で活動は盛んです。

有事の時には、東日本大震災での教訓を活かし、自分の安全確認後はお互いの安否確認をするという取り決めをしました。

立地として山の上であり、駅までの坂道が大変、車がなくては買い物が大変、降雪の時は雪かきが大変、落ち葉が多くて屋根の雨どいに詰まる、などの問題もありますが、今後も顔の見える関係をつくっていき、住みやすい地域づくりを進めていきたいと思ひます。



よみうりランド外周道路

あさお区内地域紹介

片平のどんど焼き

片平町内会 会長 中山 厚夫
片平のどんど焼きは「片平中村通公園」と、「片平川水車橋奥の畑地」の2ヶ所で開催されています。どんど焼きは「歳(サイ・セイ)の神」といい、五穀豊穡・無病息災・子孫繁栄を願う神事を受け継いでいるので、町内会ではなく「どんど焼き歳の神保存会」の主催で行われています。中村通公園では鉄板で囲いをつくり、木の枝・粗朶(そだ)を添えて、正月飾り・しめ縄・お札・ダルマなどを中に入れます。水車橋奥の畑地では孟宗竹に粗朶・笹などを添え、正月



片平のどんど焼き(昨年開催時の様子)

どんど焼き

飾り・しめ縄・お札・ダルマなどを組み込んでやぐらをつくりまします。どちらも中心には歳の神の石を置き、その石を預かっている者が点火します。火が勢いよく燃え上がった時に書初めを燃やすと習字が上達するといわれています。火勢が収まった頃、保存会で用意した笹竹に保存会関係の女性陣がつくった団子を刺して焼きます。歳の神の火で焼いた団子を食べると一年間無病息災で過ごせるとの言い伝えがあり、毎年大勢の人が集まり伝統の行事を楽しんでいます。点火は中村通公園



片平のどんど焼き(昨年開催時の様子)

が午前11時、水車橋奥の畑地が午後3時と時間をずらして、より多くの方が参加できるよう配慮されています。例年一週間前に開催日時を知らせる高札が立てられ、町内に周知されます。

東百合丘町会のどんど焼き

東百合丘町会 会長 松澤 武雄
「どんど焼き」はこの地で16年ほど前まで有志によって継承されていましたが、開催場所の問題で中断しました。多くの町会員から伝統文化である「どんど焼き」を復活してほしいという声が上がリ、町会として調整を図ってまいりました。一番の問題点の開催場所



東百合丘町会のどんど焼き(昨年開催時の様子)

について、田園調布学園大学さんが私どもの趣旨にご賛同をいただき、野球練習グラウンドをお借りすることができました。そしてこの行事を司るにあたり、地元の人たちの助けを得ることができました。これにより消防団のご協力と町会役員、地域、PTAの皆様方のご協力、ご支援を受けて平成31年1月13日に、16年ぶりに町会主催で実施することができました。

参加された皆さんはお焚き上げで昇り上がる煙と炎に願いを込めていたことと思います。東百合丘町会はこのように親子で参加できる伝統文化「どんど焼き」の活動を通して地域の皆様の絆が深まることを願い、今後も継続してまいります。

(令和元年12月現在)